

1 部

学習サポート

10 / 1 ~ 11 / 8 の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着でお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2013』1部に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

| | 提出物 | 締切日 |
|------------------------------------|---------------------|--|
| 10月科目修了試験 | レポート・ 申込ハガキ | 10月9日(水) |
| 秋期スクーリングⅢ (11/2~11/17) | 申込ハガキ | 10月10日(木) |
| 秋期スクーリングⅣ (11/30~12/8) | 申込ハガキ | 11月7日(木) |
| オンデマンド・スクーリング | TFUオンデマンド 画面上申込み | 10月1日(火)正午 ほか『With』93 号 p. 48, 本冊子 p. 38表参照 |
| 特講・社会福祉学7・福祉心理学4 履修登録・スクーリング申込み | 履修登録用紙 | 9月30日(月) |
| 11月在宅web科目修了試験 | レポート・ 申込メール | 10月29日(火)正午 |

| | 受付日 |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">レポート</p> <p>(レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)</p> | <p>10月10日(木) 10月22日(火) 10月31日(木)</p> |

※「スクーリング受講者専用別レポート」締切：(郵送) 受講後1カ月以内
(オンデマンド) 5部参照

■社会福祉援助技術演習・実習関連

| | 締切日 | 備考 |
|--|---|--|
| <p>★■社会福祉援助技術演習B・◆演習Ⅱ 1単位めレポート + 受講条件達成のための 6科目分のレポート</p> | <p>9/15申込済者で 10/15受講判定希 望者 →10月15日(火)</p> | <p>(注) 『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「★■演習B」 p. 137～142 「◆演習Ⅱ」 p. 193～197 + 『試験・スクー リング 情報ブック 2013』 p. 33・35</p> |
| <p>★■社会福祉援助技術実習指導B 課題3・4・5 (実習事後課題) . ◆社会福祉援助技術現場実習指導(事後) 課題3-① (実習事後レポート)</p> | <p>11/9受講希望者 →10月18日(金) 11/23受講希望者 →11月1日(金) 11/30受講希望者 →11月8日(金)</p> | <p>(注) 『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「★■指導B」 p. 153～156 「◆指導」 p. 198～200 + 『試験・スクー リング 情報ブック 2013』 p. 34・35</p> |

| | 締切日 | 備考 |
|--------------------------------|---|---|
| <p>★■社会福祉援助技術実習指導A 課題3</p> | <p>平成26年度の実習 受講希望者 →10月31日(木)</p> | <p>(注) 『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「★■指導A」 p. 149～152 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2013』 p. 34</p> |

■精神保健福祉援助演習・実習関連

| | 締切日 | 備考 |
|--|---|--|
| <p>◆★精神保健福祉援助演習 1単位めレポート</p> | <p>9/15申込済者で 10/15受講判定希 望者 →10月15日(火)</p> | <p>(注) 『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「◆★演習」 p. 234～239 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2013』 p. 36</p> |
| <p>■精神保健福祉援助演習C (実習免除者対象) スクーリング申込用紙 + 1単位めレポート (スクーリング事前課題)</p> | <p>11/16・17受講希望者 →10/15(火)</p> | <p>※対象者に個別配 付の冊子参照</p> |
| <p>■精神保健福祉援助演習B (実習免除者対象) 2単位めレポート※ (スクーリング事後課題)</p> | <p>8/31・9/1 受講済者 →10/31(木)</p> | |

※実習履修者は個別配付の『平成25年度 精神保健福祉援助演習・実習シラバス』p. 6 精保演習B-2「2単位めレポート提出締切日」に記載のとおり、精保演習B-2の受講日より異なります。

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

| | 締切日 | 備考 |
|--|------------------------|--|
| 教育実習・障害者(児)教育実習誓約書・健康診断書（・個人調査票のコピー）提出 | 12月実習開始者 →10月15日(火) | ※事前指導受講済者のみ対象 |
| 10月生 今後の教育実習・教職実践演習受講希望者 履修カルテ（9/12発送分） | 10月25日(金) | 『学習の手引き』3章（『レポート課題集2013（心理・教職編）』 p. 185から変更） |

■その他

●科目等履修生（10月生）

- ・継続申込締切 10月10日(木)

●卒業研究

- ・申込締切（9月卒業希望者） 10月5日(土)
- ・2回目ガイダンス申込締切（福祉心理学のみ） 11月5日(火)

あの日、3・11から2年半 ～必要な精神保健的援助と福祉的援助～

教員 MESSAGE

教授 阿部 正孝

そもそも、揺れ方や広さの規模がこれまでの震災とは違うと言われた東日本大震災から二年半。あの時は街が行政区単位に根こそぎ波に呑まれ、町内の1丁目の犠牲者は40人、2丁目の犠牲者は60人余りと、これまで経験したことのない震災で、町内会や自治会が壊滅するほどの自然災害だった。本来の馴染みの街も広い荒野に立たされた感じで、自分の立っている所すら位置確認が出来ないほど街並みを破壊した。今でも荒れ地に建物の基礎しか残ってないところを車で走ると、以前の光景が頭の中に浮かび、自分がどこにいるのか見当を失ってしまう。

当時の避難所は野戦病院と化し、多くの避難民が集まり家族を探す。避難所の柱や掲示板に連絡のつかない家族に「〇〇よ、無事か？これを見たら××避難所に来い」「俺は無事だ。連絡待つ」など数えきれないメモ書きが無造作に貼られていた。体育館のアリーナ内などは疲れ切ってしまった人たちでごったがえし、泣き叫ぶもの、無表情で腰かけているもの、土足で出入りするの当たり前前で異臭も散らばり、衛生上の問題も心配された。家族や財産を一瞬に亡くし流民となった彼らにかけられる言葉は持ち合わせなかった。

このすべての光景が私には「信じられない。これが現実なのか…」「なんということが起こったのか…。本当に起こっていることなのか」と呟き、悲しみも苦しきも湧き上がらないものの、涙だけは不思議に溢れ、ただ茫然としていた。

また、阪神大震災と違い、今回は日中の惨事で、家族が仕事、学校、家庭にと離れて生活していたので、家族と連絡がつかず家族の安否確認も不安を増大させた。一晩中、ごったがえしている避難所に独りでいた4歳男

子児童、避難所待機していたものの、家族と4日間も互いの安否確認が出来なかった小学4女子児童などがあり、彼らの当時の悲しみが時間の経過とともに、今、揺れ始まっている。

私の支援活動はここから始まった。

皮肉にも建物の流失の結果、国道から今まで見たことのない広大な海原、穏やかな太平洋が望まれる。しかし、その裏側に潜んでいる多くの犠牲者を飲み込んだ自然がいつまた牙をむけるのか、自然の恐ろしさなどの複雑な気持ちが心を揺らす。

震災以来、被災地に毎週支援活動に入っている。共に被災地のために支援活動に入っていた多くの支援者（ボランティア、NPO、NGO、他町村、活動団体など）のおかげで復旧がはかどり、避難所から仮設住宅に住まいを移し、現在は復興住宅が建設中である。市民と行政の繋がりも出来、仮設住宅周辺には急ごしらえの店舗が作られ、久ぶりの生活の匂いと音が返ってきている。

しばらくして、大学の講義をしていて気付いたのだが、被災地救援活動から援助職の道を求めて本学に入学してくれた方、自閉症のわが子の世話をし、高校入学までのご苦労をなされ、そのまま福祉の勉強のために入学してくれたお母さんを知ることが出来た。小さな活動からの大きな志は、私たち福祉従事者を養成する者には励みになる。このような多彩な経験を持つ社会人学生は今後の災害福祉の援助者として尊い。

今、私たちは未曾有の災害を前にして、初めて回答のない問題の前に立たされている。「自然」から私たちが何をどうしたら良いか問われている。暮らしがなくなり、仕事がなくなり、古里での復興をあきらめ、見知らぬ街で復興を模索せざるを得ない人々にどう回答を出したら良いか問われて

いる。表面的に「頑張っています！ 張り切って生活をしています！」という元気な言葉を言ってくれる仮設住宅に暮らす子供たちの言葉。しかし、「毎日、何をやっているの？」と追加質問すると「毎日ゴロゴロ寝てる。TVを観ている」「将来のことについて考えると不安になる！」と答える子供たち。そこには不安を抱えながらも、必死に大人には心配をかけまいとする子供たちの精一杯の健気さに、どう回答を出したら良いか問われている。

このような生活を取り戻せずに流浪する民にまだ灯りが見えない。本来、精神的にも、保健的にも、福祉的にも援助しなければならないのに、いまだ援助方法を見いだせない精神保健福祉士〈私〉は苦しむ。

世相が混乱した時に福祉は生まれる。生活の苦しみの人々を前にすると福祉従事者が増えると言われております。災害ソーシャルワークには打たれ強く、癒しの気持ちを持った前向きな多彩な面を併せ持った人材が求められています。その様な方たちが、新しい道程を切り拓いてくれ、模範回答を出してくれると期待したい。今だからこそ、創造性豊かな社会人学生出身の精神保健福祉士の誕生が望まれている…。